

(9) 文化施設

1) 施設概要

① 施設一覧

本市では、郷土の資料を公開し、市民及び見学者の知識向上を図るため、文化施設を2施設設置しています。

2施設とも、単独施設となっています。

図表 施設一覧

名称	所在地	延床面積 (㎡)	建築 年度 (年度)	構造 (主たる建物)	備考
1 歴史館	小牧市堀の内一丁目1番地	716.6	昭和42	鉄筋コンクリート	
2 民俗資料保存施設	小牧市堀の内一丁目50番地	540.3	平成5	鉄骨造	
合計		1,256.9			

② 事業内容

<歴史館>

- ・郷土資料、民具等の展示
- ・体験学習会
- ・企画展示

<民俗資料保存施設>

- ・郷土資料、民具等の収集
- ・発掘調査出土遺物の整理作業

③ 開館時間等

<歴史館>

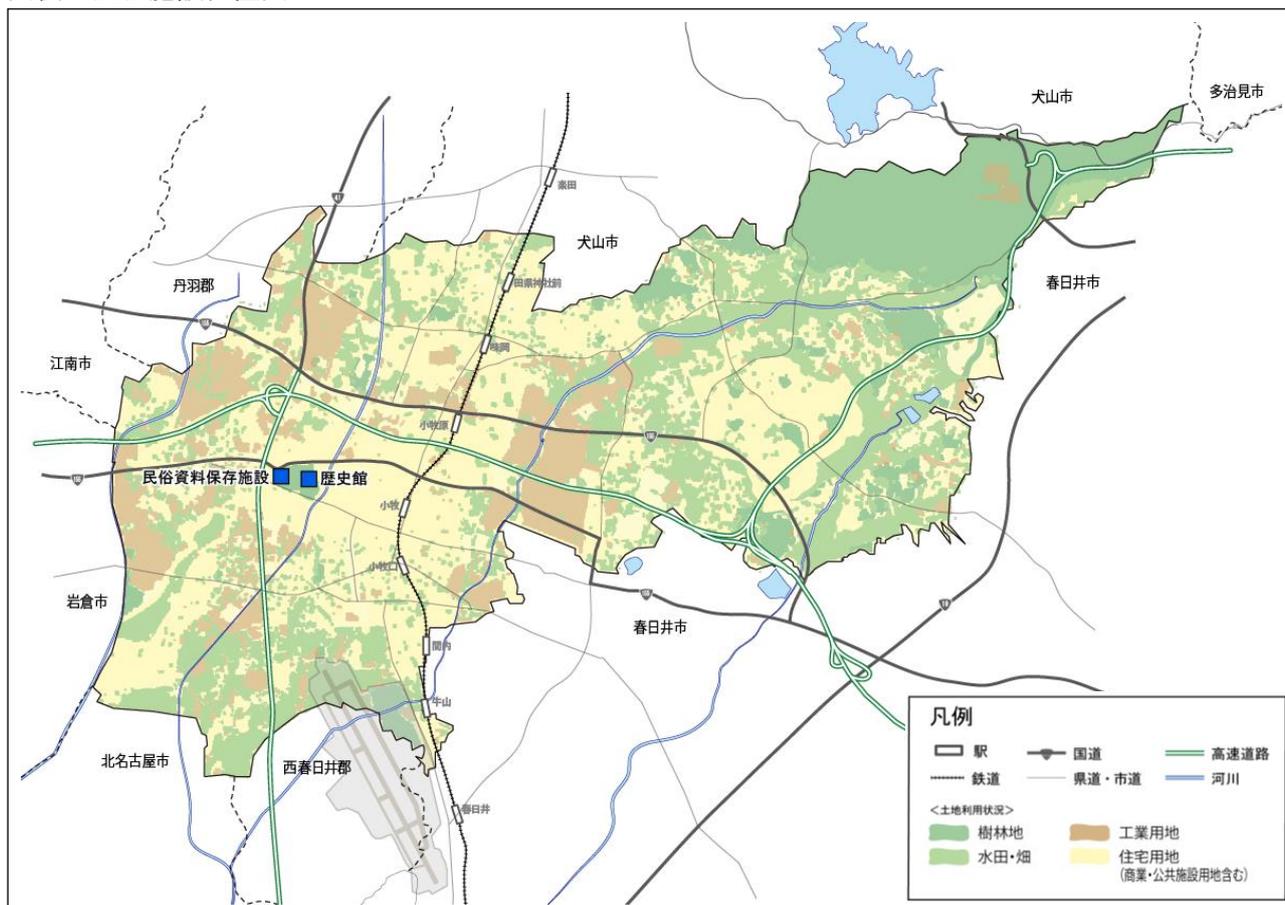
開館時間	休館日	開館日数
午前9時から午後4時30分	<平成24年12月まで> 木曜日(ただし、祝祭日の場合は翌平日) <平成25年1月から> 第3木曜日(ただし、祝祭日の場合は翌平日) 年未年始(12月29日から1月3日)	319日

④ 利用方法及び使用料

区分		入場料	
大人		100円	
小人	小学生及び中学生(中等教育学校の前期課程に在学する者を含む。)	30円(土・日・祝日は無料)	
団体	30人以上の団体	大人	60円
		小人	20円

⑤ 配置状況

図表 文化施設位置図

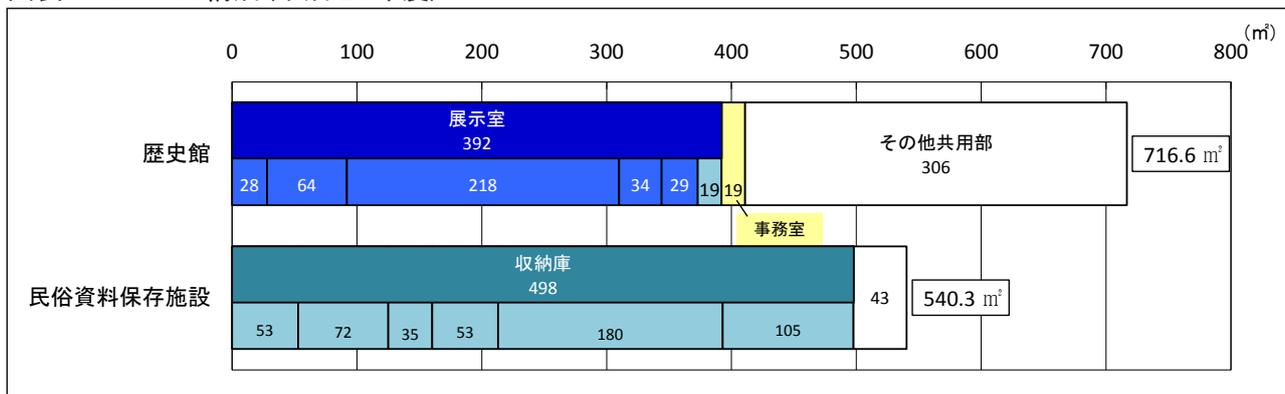


⑥ スペース構成

歴史館は、延床面積 717 m²であり、そのうち展示室や収納庫の展示室機能面積が 392 m² (55%) となっています。

その他に、事務室等を保有しています。

図表 スペース構成(平成 24 年度)



2) 実態把握

① 建物状況

■ 文化施設の建物総合評価結果

平成 25 年度の文化施設の建物状況について評価を行いました。

No.	施設名	基本情報		①耐震化	②老朽化			③バリアフリー対応					④環境対応		⑤維持管理(H24年度)							
		建築年度	延床面積 (㎡)	耐震改修	築年数	直近の大規模改修	規模改修後経過年数	エレベーター※1	車いす用トイレ	障がい者用トイレ	車いす用スロープ	自動ドア	手すり	トイレの洋式化	太陽光発電の導入	自然エネルギー・屋上・壁面緑化等	環境対応設備※2	維持管理費(千円)		床面積当たり(円/㎡)		
1	歴史館	昭和42	717	×	46	平成18	7	-	×	×	○	×	○	評価対象外		指定管理委託料に含まれるため評価対象外とする						
2	民俗資料保存施設	平成5	540	-	20	-	20	-	×	×	×	×	○	×	×	×	503	605	40	932	1,119	74
合計			1,257																			

①、③、④の記載例
 実施済み：○
 未実施：×
 不要：-

※1 手すり・鏡・低い操作ボタン等の設置
 ※2 節水型便器、高効率照明器具・LED照明、雨水・中水設備
 ※①の「不要：-」には、耐震診断の結果耐震化が不要な施設と新耐震基準施設のため不要な施設が含まれる。

民俗資料保存施設は、築 20 年を経過しており、今後計画的な老朽化対策が必要です。(パターンC)

歴史館は、耐震安全性が確保されておらず、早急な耐震対策が必要な施設です。平成 27 年度に耐震改修工事を実施する予定となっています。(パターンD)

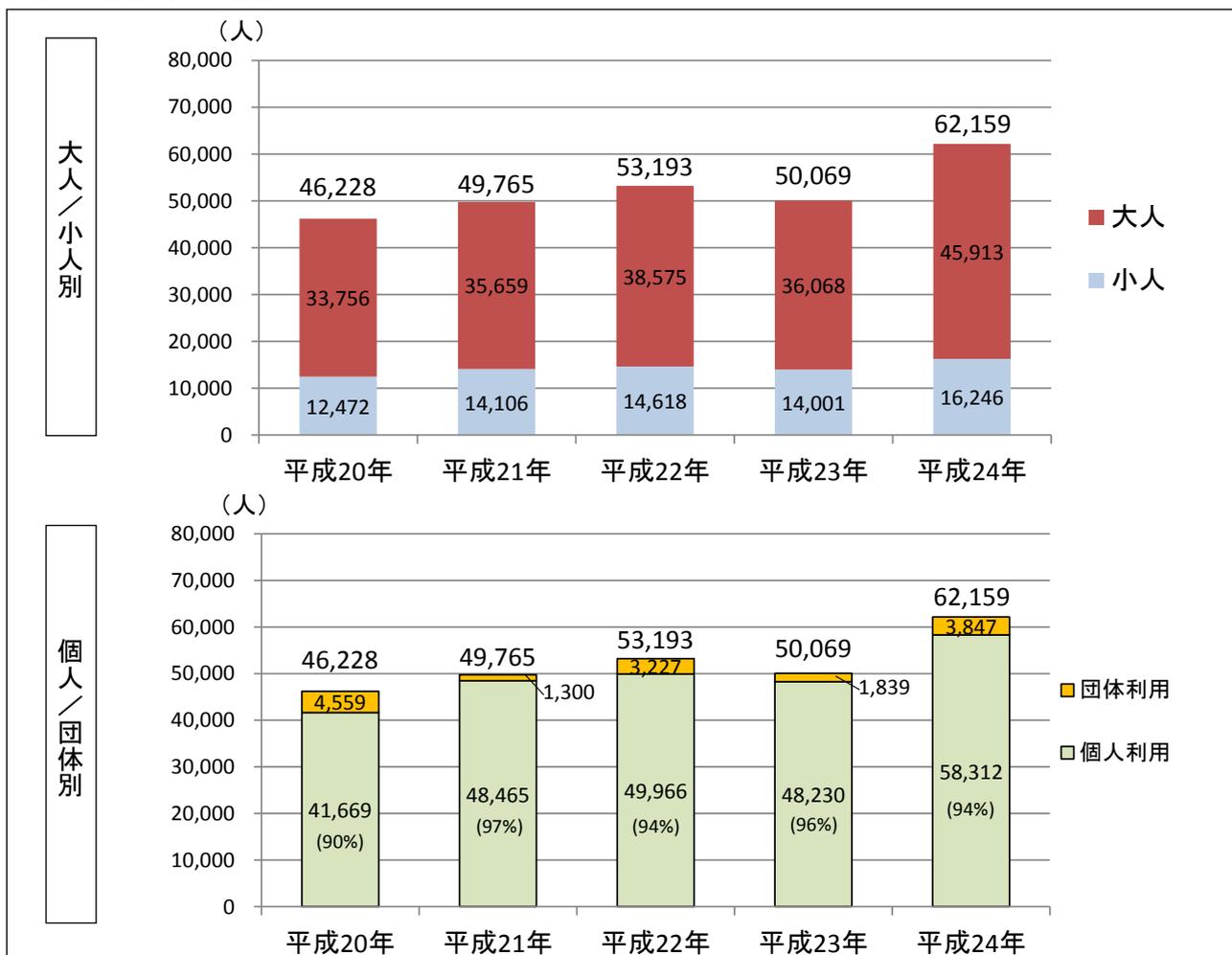
評価	パターンC 今後 老朽化	パターンD バリアフリー未対応
		・老朽化が進行している
該当施設	該当施設 民俗資料保存施設 建築年度 平成5 < 1 施設 >	該当施設 歴史館 建築年度 昭和42 < 1 施設 >
コメント	・新耐震基準の建物ですが、築20年を超えており、計画的な老朽化対策の検討が必要になっています。	・バリアフリー化が一部完了していないため、計画的な改修や効率のよい設備の導入などの対応が望まれます。

② 利用状況(歴史館)

■ 利用者数の推移

利用者数の推移は、4万6,228人から6万2,159人で推移しています。平成24年度は前年度と比較して24%増加しています。これは、桜の開花が例年より早かったため、夜間開放を前倒して実施したことが影響していると考えられます。

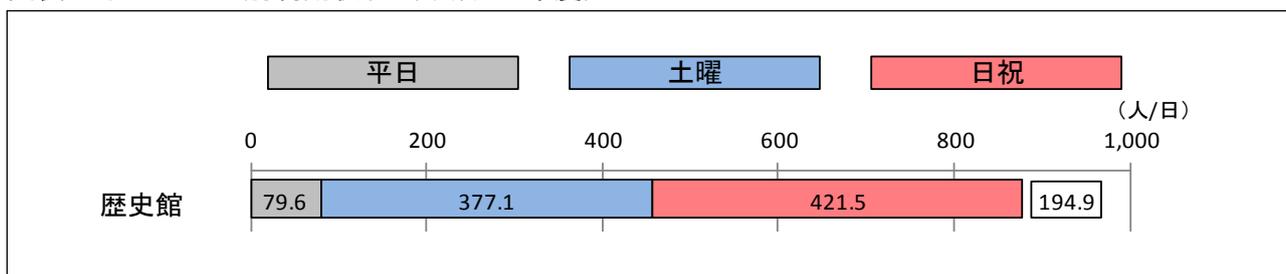
図表 利用者数の推移



■ 平日／土日別利用状況

1日当たりの利用者数は約195人、土曜日、日曜日・祝日の利用が多い傾向となっています。

図表 平日／土日別利用状況 (平成24年度)



③ 運営状況

歴史館は、指定管理者制度を導入しています。指定管理者職員は、3人が従事しています。
民俗資料保存施設は、市職員等による市の直営です。市の職員は、3人が従事しています。

図表 運営人員（平成24年度）

(人)

		歴史館	民俗資料 保存施設	合計
		指定管理者	直営	
施設維持管理	臨時職員		3.0	3.0
	計		3.0	3.0
施設利用に関する 受付・案内	指定管理者職員	2.5		2.5
	計	2.5		2.5
各種講座・講演会等 の企画・開催	指定管理者職員	0.5		0.5
	計	0.5		0.5
合計		3.0	3.0	6.0

④ 運営体制

歴史館の運営体制は、指定管理者の一般職員が1人、臨時職員が1~2人従事しています。
土・日曜日・祝日の運営も、平日同様の運営体制です。

図表 運営体制（平成24年度）

		8:30	17:15
歴史館	平日(月~金) 土・日曜日・祝日	一般職員(指定管理者職員) 0~1人	
	運営体制 約3人	臨時職員(指定管理者職員) 1~2人	

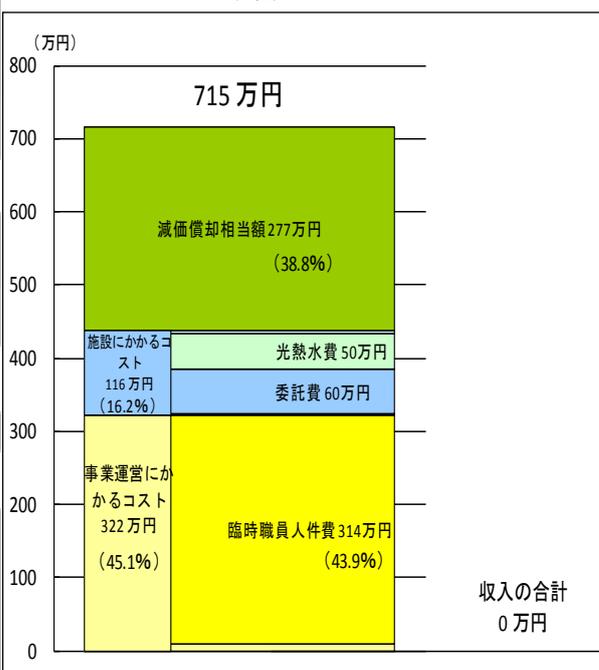
■ 民俗資料保存施設

民俗資料保存施設の年間トータルコストは、715万円です。年間トータルコストのうち、施設にかかるコストは116万円(16%)、事業運営にかかるコストは322万円(45%)、減価償却相当額は277万円(39%)となっています。

図表 市の行政コスト計算書（平成24年度）

		(円)
I. 現金収支を伴うもの【コストの部】		民俗資料 保存施設
施設にか かるコ スト	修繕費	39,900
	光熱水費	503,364
	委託費	604,758
	使用料及び賃借料	9,042
	施設にかかるコスト	1,157,064
事業運 営にか かるコ スト	臨時職員人件費	3,138,900
	負担金補助及び交付金	0
	その他物件費	86,051
	事業運営にかかるコスト	3,224,951
現金収支を伴うコスト 計		4,382,015
【収入の部】		
収入	使用料収入	0
	諸収入	0
収入の合計		0
II. 現金収支を伴わないもの		
コスト	減価償却相当額	2,772,330
III. 総括		
コストの部合計(トータルコスト)		7,154,345
収支差額(ネットコスト)		7,154,345

図表 民俗資料保存施設 トータルコスト
(平成24年度)

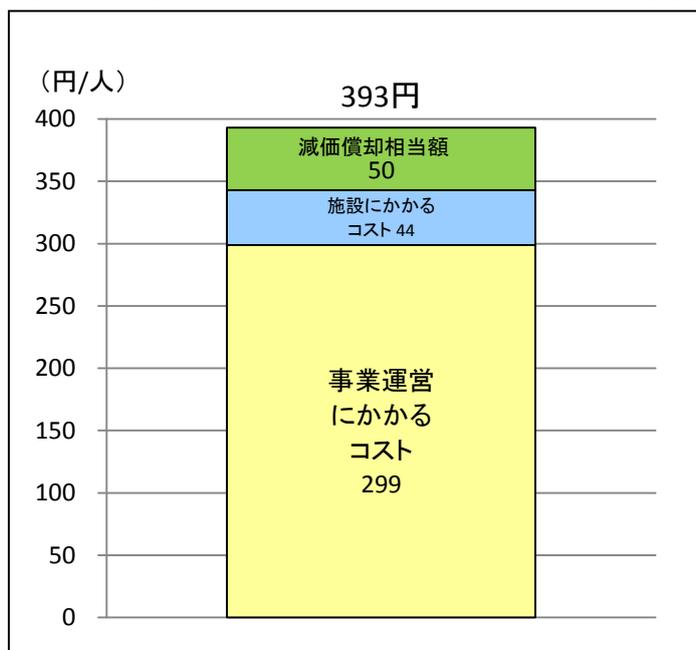


3) 評価・分析

■ 利用者数1人当たりにかかるコスト

歴史館の年間利用者数とトータルコストから利用者1人当たりにかかるコストを算出すると、393円となっています。

図表 利用者1人当たりにかかるコスト（平成24年度）



4) 今後の検討の視点

■ 施設に関する視点

- 歴史館は、小牧山の山頂に立地しています。建物は老朽化が進行していますが、その立地特性を生かし、今後建設予定の史跡センターと連携を図りながら、両者で役割分担をするなど施設のあり方を検討する必要があります。
- 民俗資料保存施設は、職員が保管品の管理などを行う施設ですが、長年にわたり収集した多数の民俗資料を保存しているため、収蔵庫が手狭になり、収納場所が不足している等の課題があります。

施設写真



歴史館



民俗資料保存施設